



石井かずみ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7910

鎌ヶ谷市内の早期事業化を

北千葉道路 国への働きかけ要望



9月定例県議会で一般質問を行う石井一美県議

生まれ育った鎌ヶ谷市の発展を願う石井一美県議は、9月定例県議会で登壇し、熊谷俊人知事の政治姿勢や鎌ヶ谷市内の道路整備などについて質問しました。市川市から成田国際空港を結ぶ北千葉道路整備計画が進んでいますが、石井県議は「事業化区間に鎌ヶ谷市が含まれなかったことは非常に残念」として、船橋市までの早期事業化を要望しました。また、計画がスタートしてから20年、遅々として進まない粟野バイパス整備について、現在の取り組み状況を質問しました。石井県議の質問と熊谷知事らの答弁を紹介します。

9月定例県議会一般質問

石井議員 北千葉道路は、市川市の東京外かく環状道路から船橋市の国道16号までの15キロメートル区間において、都市計画の変更の手続きを済ませ、市川市大町付近までの3.5キロメートルが令和3年度から国により、新規事業化された。

事業化されたことは大変喜ばしいが、しかしながら、肝心の交通渋滞が激しい鎌ヶ谷市内については、事業化された区間に含まれていなかった。鎌ヶ谷市では、既存の国道、県道、市道に多くの通過交通が通っており、非常に危険な状態になっている。鎌ヶ谷市内の未事業化は大変残念だ。そこで、北千葉道路の市川市から船橋市間の早期整備に向けて、どのように取り組んでいくのか。

知事 北千葉道路は、外環道と成田空港を最短で結び、本県北西部の渋滞緩和や、防災力強化に大きな役割を果たす道路です。市川市から船橋市間については、今年度事業着手された区間が早期に整備されるよう国に協力していくこと

とはもとより、残る区間の早期事業化に向けて、建設促進期成同盟会による要望活動など、あらゆる機会を捉えて国に働きかけてまいります。また、整備の機運を高めるため、計画の概要や必要となる活動を周知する広報活動を継続するなど、引き続き、北千葉道路の早期整備に向けて、沿線市と一体となつて取り組んでまいります。

要望 石井議員 北千葉道路について、現在の計画で残る船橋市までの

早期事業化を図られるよう取り組んでほしい。
「コロナ終息後の成田空港の需要増に対応するためのアクセシ強化として北千葉道路の整備は必要不可欠であり、是非とも空港の機能

強化に遅れることなく北千葉道路が供用できるよう、熊谷知事には、北千葉道路建設促進期成同盟会の会長として、国に出向いて働きかけていただくよう強く要望する。

全国統一制度が必要

子ども医療費助成

石井議員 子ども医療費助成制度についてうかがう。

県内市町村において、対象年齢などサービスが異なることについて、県としての役割を含め、県割を含め、県割をどのように考えているのか。

知事 各市町村において、人口構成や医療サービスの提供状況など地域の実情を踏まえて、独自の取り組みを行っていることは承知していますが、県としては、現行の制度は、支援の必要性の高い年齢をカバーしているものと考えており、今後も持続可能な制度として安定的に維持運営していくことが重要と考えております。

この制度については、私も将来の財見通しなど慎重に見極めながら拡充していきたい記憶があります。また、県内の市町村長と、それぞれの助成制度に対す

●県政や鎌ヶ谷市のまちづくりに関する相談をお気軽にどうぞ

石井かずみ 県議事務所 〒273-0132 鎌ヶ谷市粟野153
TEL 047-443-4731 FAX

石井かずみ・PROFILE

略歴

- 昭和19年 鎌ヶ谷市に生まれる
- 昭和38年 千葉工商高校卒
- 同年 有限会社石井商店勤務
- 昭和62年 鎌ヶ谷市議会議員当選(7期)
- 平成9年 鎌ヶ谷市議会議長
- 平成27年 千葉県議会議員当選(2期)

現職

- 千葉県議会 総務防災常任委員会委員長
- 鎌ヶ谷市野球協会会長
- 社会福祉法人理事

遅れ目立つ栗野バイパス整備

市街地の渋滞緩和へ 速やかな工事着手を

石井議員 鎌ヶ谷市内の渋滞を早急に解決させるために、平成12年度から千葉県により栗野バイパス整備が進められている。

そもそも、栗野バイパスは、国道464号の千葉ニュータウン方面からの一日当たり3万台に及ぶ交通量の受け皿として、中心市街地である新鎌ヶ谷駅周辺の慢性的な交通渋滞を緩和させるために、北千葉道路の整備に先行し、用地取得を行っている状況だが、既に20年が経過しているにもかかわらず、供用の見通しが立っていない。

北千葉道路の事業化された区間に含まれなかった鎌ヶ谷市内において、栗野バイパス整備は喫緊の課題。そこがかがが、栗野バイパスの今後の取り組み状況はどうか。

県土整備部長 国道46

4号栗野バイパスは、鎌ヶ谷市街地の交通混雑の緩和や歩行者等の安全確保を図ることを目的とした1・7キロメートルのバイパスです。

このうち、県道船橋我孫子線から鎌ヶ谷市道4号線までの0.8キロメートルを優先整備区間として、用地の取得を進めてきたところであり、用地取得率は約5割となっています。

このバイパスは、北千葉道路の計画区域にも含まれることから、その事業化に際し整備が円滑に進むよう、引き続き、用地取得を進めてまいります。

石井議員 引き続き

き北千葉道路にとられず事業を進めていただし、用地取得している力所から、今すぐにも橋梁などの構造物の工事に着手するなど、目に見えるような事業の進捗を望んでいます。

については、栗野バイパスについて、さらなる事業の推進を強く要望する。

都市計画道栗野田境線整備計画具体化へ 鎌ヶ谷市と検討

石井議員 鎌ヶ谷市内の北千葉道路から松戸市へ抜ける都市計画道路の3・1・2号栗野野田境線はアケセ

大柏川第二調節池 治水へ造成工事進む

石井議員 大津川や真間川流域の大柏川第二調節池の整備状況と今年度の事業内容はどうか。

県土整備部長 大津川については、手賀沼から関根橋までの5・7キロメートルの区間

ス道路として必要不可欠だ。そこでかかか、北千葉道路に接続する鎌ヶ谷都市計画道路3・1・2号栗野野田境線の検討状況はどうか。

県土整備部長 北千葉道路の整備効果を広く波及させ、地域の活性化や利便性の向上を図るためには、北千葉道路の整備に併せて、アケセ道路の整備を推進することが重要であると考

また、大柏川第二調節池については、現在、用地取得率は91%となっており、まとまった用地が確保できた上流側区域において、掘削や築堤を行い、貯留機能の早期確保を目指しているところだ。

今年度も、昨年度に引き続き、掘削に先立ち、周辺の地盤沈下を防止するための対策工事を実施することとしております。

今後、地元の皆様へ丁寧な説明を行い、ご協力をいただきながら、治水効果の早期発現に向けて事業を推進してまいります。

現在、栗野田境線など、新たに整備される鎌ヶ谷市内のアケセ道路については、事業主体などの具体的な整備計画について、鎌ヶ谷市と検討を進めているところ

引き続き、北千葉道路の整備に併せたアケセ道路の整備に向け、沿線市と連携して取り組んでまいります。

また、大柏川第二調節池については、現在、用地取得率は91%となっており、まとまった用地が確保できた上流側区域において、掘削や築堤を行い、貯留機能の早期確保を目指しているところだ。

今年度も、昨年度に引き続き、掘削に先立ち、周辺の地盤沈下を防止するための対策工事を実施することとしております。

今後、地元の皆様へ丁寧な説明を行い、ご協力をいただきながら、治水効果の早期発現に向けて事業を推進してまいります。

県道船橋我孫子線右折レーン設置し
初富交差点を改良

石井議員 県道船橋我孫子線初富交差点改良の取り組み状況はどうか。

県土整備部長 県道船橋我孫子線を結ぶ主要な幹線道路ですが、初富交差点では、南北方向からの右折が出来ないことから、交通の利便性向上に向けて、交差点改良に取り組んでいるところです。

現在、道路に並走する鉄道用地を利用した右折レーンの設置に向け、鉄道会社と協議を行っているところであり、協議が整い次第、地元への計画説明を行い、用地取得に向けた測量に着手する予定です。

県道千葉鎌ヶ谷松戸線
鎌ヶ谷大仏交差点の
2カ所に右折レーン

石井議員 県道千葉鎌ヶ谷松戸線鎌ヶ谷大仏交差点の改良の進捗状況はどうか。

県土整備部長 円滑な交通と歩行者の安全を確保するため、交差点改良と併せて、延べ約1300メートルの歩道拡幅を実施しています。

これまでに、約8割の用地を取得しており、県道千葉鎌ヶ谷松戸線の松戸市側と市川印西線の市川市側の2カ所に右折レーンを設置するとともに、延べ約750メートルの歩道拡幅が完成しています。



県執行部の答弁に対して、要望をする石井議員

新鎌ヶ谷駅前県有地 まちづくりに重要

石井議員 新鎌ヶ谷駅周辺の県有地は、市のまちづくりにとって重要な場所と考えるが、企業局は今後、どのように処分を進めるのか。

企業局「分譲条件、市と協議」

そのため、返還後の土地の処分については、今後、鎌ヶ谷市と協議を行い、市の意向も踏まえながら、分譲条件の検討を進めてまいります。

石井議員 今年度鎌ヶ谷市は市政50周年を迎える。新鎌ヶ谷地区周辺のまちづくりについては、4つの鉄道の駅がある新鎌ヶ谷地区の更なる発展のためにも、早期に新鎌ヶ谷駅前のまちづくりを市と連携して進められるよう要望する。

石井議員 大柏川第二調節池及び大津川の整備については、県民が安全、安心に暮らすためにも、治水対策は鋭意進めていく課題であり、事業の進捗を要望する。